

## ピーター・ズントーの建築創作およびその現代的意義に関する考察

## The Architectural Creation and its Contemporary Significance of Peter Zumthor

○末包伸吾（神戸大学）\*1 後藤沙羅（神戸大学）\*2 増岡亮（大手前大学）\*3

\*1 Shingo SUEKANE, Kobe University, Rokkodai, Nada, Kobe, 657-8501, suekane@people.kobe-u.ac.jp

\*2 Sara GOTO, Kobe University, Rokkodai, Nada, Kobe, 657-8501, saragoto@people.kobe-u.ac.jp

\*3 Ryo Masuoka, Ohtemae University, 6-42 Otyayadokoro, Nishinomiya, 662-8552, masuoka28@gmail.com

キーワード: ピーター・ズントー, 建築創作, 現代建築

## 1. 緒言

本考察は、個別の課題ごとに実践活動を展開させ、場が有する素材的・文化的資源に対応してきた建築家ピーター・ズントー(Peter Zumthor, 1943-)の建築思想とそれに基づく建築作品の分析を行うことにより、彼が追求・実践する<Sachverhalt(事物の振る舞い)>の操作と<Atmosphären(空気感)>の創出、そして彼が最終目標とする<Schöne Figur(美しい姿)>の特質を明らかにすることで、現代における建築創作に資そうとするものである。

本考察は、研究の目的・背景・対象および方法を示す序章、ズントーの活動概要、思想形成の背景等の一般的考察を行う第1章、分析対象文献を明示し、言説の分析方法に関して述べ、ズントーの思想全体に関する概念構造を明らかにする第2章、その上で、ズントーの建築に関する問題意識と思考法を示す第3章、ズントーの建築に関する基底的な建築概念を示す第4章、ズントーの空間構成手法を典型的に明らかにする第5章、具体的な作品分析を実証的に行う第6章、考察全体を取りまとめ、彼の建築創作の現代的意義を示す結章の計8章からなる。

## 2. 人物の概要と思想分析方法

## 2.1 人物の概要

ピーター・ズントーは1943年にスイスのバーゼルに家具職人の息子として生まれた。1968年から歴史的建造物保存局へ勤務し、1979年に事務所を設立。2009年にプリツカー賞を受賞した。

## 2.2 思想分析

言説の分析対象資料としては、建築思想について述べられた2冊の著作『Architektur Denken(建築を考える)』<sup>3)</sup>、『Atmosphären』<sup>4)</sup>を取り上げる。それらをデータ化、重要言説569言説を抽出し、概念化、キーワード表を作成することで、概念構造図を導出し、思想を分析する。概念構造図としては、思想の背景となっている「問題意識」「設計の思考法」、思想の核となる基礎概念である「設計の礎」「最終目標」「設計に関わる基礎概念」、思想を踏まえた上での設

計を行う際の手法である「空間構成手法」という計6つの構造を見出した。これらを構造図として図式化したものが下記図1である。

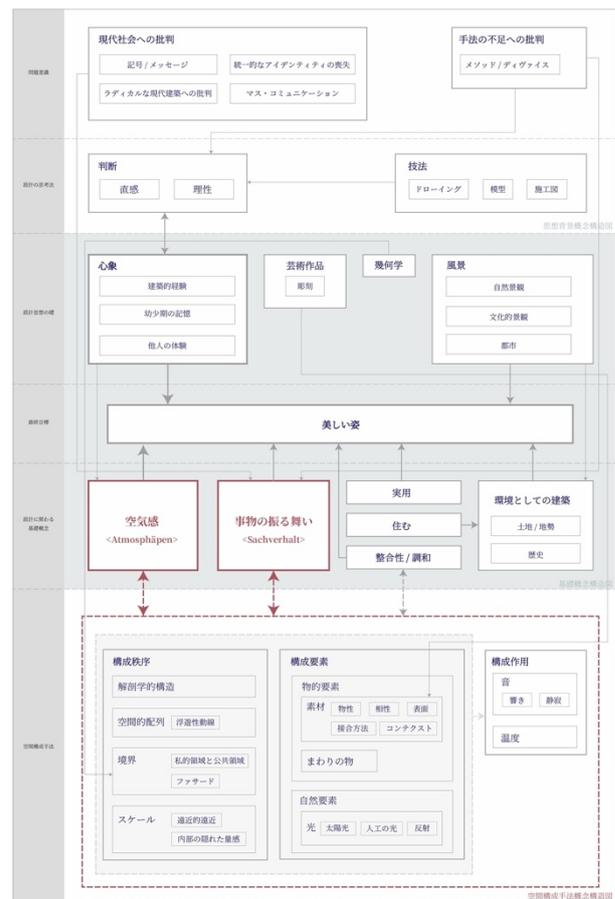


図1 概念構造図

## 3. 問題意識と思考法に関する考察

## 3.1 問題意識に関する考察

現在社会において、<マス・コミュニケーション>は画一的なく記号/メッセージ>を全世界の人々に与え続けて

おり、それに起因する〈統一的なアイデンティティの喪失〉を彼は危惧する。彼は建築を〈記号/メッセージ〉を訴えるためのものとする現代建築の流れに批判的な立場を取る。またクラスター化、構造の破綻といったメッセージのみに基づいている〈ラディカルな現代建築〉に対しても否定的である。さらに、対位法や和声学、色彩論、黄金分割などの〈メソッド/ディヴァイス〉のみを用いた設計では、〈美しい姿〉にたどり着けないとした。

### 3.2 設計の思考法に関する考察

彼は批判的な〈理性〉によって設計過程を吟味するが、作品制作の最終決定に用いるものは〈直感〉であり、これが彼自身を突き動かすものである。

また技法として、〈ドローイング〉は求めている基本的な雰囲気がつかめるところで視覚的描写をとどめる。〈模型〉では実際の素材を模型段階から使用することによって、自分の求める作品の全体性を見極める。さらに〈施工図〉の中には外からは見えない接合の技、眼に見えない幾何学、素材相互のこすれ、内部の諸力を見られるとして重要視する。

## 4. 基礎概念に関する考察

### 4.1 設計思想の礎に関する考察

〈心象〉は彼の建築におけるイメージの基層をなす。彼は主に3つの心象〈建築的経験〉、〈幼少期の記憶〉、〈他人の経験〉について言及した。また〈芸術作品〉から、素材の本質を顕視させること、部分が全体の理念に奉仕することという考え方において影響を受けた。さらに〈幾何学〉は空間における法則性を示すものであると述べた。〈風景〉に関しては、風景と建築が共鳴、調和、ないしは緊張関係を持つ適切な寸法を見出すことが大切であるとした。

### 4.2 設計に関わる基礎概念に関する考察

〈環境としての建築〉に関して、自身の情熱を掻き立てるものは、時の経過とともに〈土地/地勢〉と〈歴史〉と一体となっていく建物を設計することであるとした。また、〈整合性/調和〉は〈美しい姿〉の基準となるものであり、“場所・使用・形”が環をなすものであるとした。さらに、彼は〈実用〉でできる物の美しさこそ、〈美しい姿〉の最高の形だと述べた。また、場所に対する人間の関わり、場所を介しての空間への関わりは、〈住む〉ことのなかにあるとした。

#### 4.2.1 <Sachverhalt〉に関して

〈Sachverhalt〉は〈事物の振る舞い〉と訳される概念である。彼の思想は“観念は物のなかにもみ存在する”という見方に基づき、事物の本質に即す。さらに彼は事物に集中することによって、建築における〈美しさ〉の体験を生み出す“スパーク”が起こると述べる。これにより〈Sachverhalt〉が〈美しい姿〉の要因であることが明らかとなった。

#### 4.2.2 <Atmosphären〉に関して

ズントーは、建築作品が芸術性を持ちうる条件として、多様な形態や内容が一体となって、心を動かすような〈Atmosphären〉を生むことができるときとした。そして、時間の経過によって生まれる〈人間の生の痕跡〉を吸収した建築は、独特の豊かさ、〈Atmosphären〉をおびることがで

きるとした。〈Atmosphären〉は人の心を動かすく美しい姿〉を設計するため取り掛かりとなるものである。

### 4.3 最終目標〈美しい姿〉に関する考察

〈美しい姿〉とは特別な〈形〉のことでなく、人間が受け取る感覚・感情の一つであると言及した。彼は〈形〉そのものでなく、〈形〉から飛び来る“スパーク”が、美の体験である特殊な興奮と感情の深度を作り出すとした。

## 5. 空間構成手法に関する考察

### 5.1 空間構成秩序に関して

彼の言説から4つの空間構成秩序を見いだすことができた。〈解剖学的構造〉は建築や構造における〈事物〉の物質としての存在、そして存在の仕方である。建築の内部には、建築を構成している〈事物〉の緊張関係が存在する。また〈空間的配列〉に関して特徴的なものが浮遊性動線である。〈浮遊性動線〉とは、人が自由にぶらつくことができる動線である。これは、各空間にそれぞれほかの空間への“移行部”を作ることによってできる。さらに〈境界〉に関しては、“内と外の緊張関係”が重要である。空間構成の方法として、「内部の空間が外と絶縁している閉じた立体」「無限の連続空間につながる部分を含んだ開かれた立体」の2つがあるという考え方は、彼の〈私的領域と公共領域〉の手法と密接に関係している。また、〈ファサード〉は内部に何かを隠しながら外部に語りかけるものであるとした。〈スケール〉に関しては、“尺度”として建築のみの寸法を考えるのではなく、人間の空間の感じ方に重きを置く。この考え方が〈身体的遠近〉である。さらに、彼は内部空間と外形と同じ形になることはないよう、壁に〈内部の隠れた量感〉が生まれるように設計する。

### 5.2 空間構成要素に関して

〈素材〉に関しては、〈物性〉、〈相性〉、〈表面〉、〈接合方法〉、〈コンテキスト〉の5つに対して考えを述べた。彼は初源的な〈素材〉の感覚的な性質に重きを置く。〈素材〉同士の響き合い、相互関係を重視し、自分の目で観察することでその相性を見極める。また〈素材〉を選ぶとき、〈表面〉を〈太陽光〉に当て、〈素材〉自体が持つ深い質量や濃淡の変化を見極める。〈接合方法〉に関しては、細部が建築作品全体の理念に奉仕するべきであると考えている。〈コンテキスト〉に関しては、〈素材〉は特定の建築の文脈の中で使用され、代替不可能の特別な意義を見出した時のみ、本来の感覚的な特性や意味を顕示することができるとした。〈光〉に関しては特に〈太陽光〉に対して特別な想いを持っている。

### 5.3 空間構成作用に関して

〈音〉に関して、〈響き〉は空間の形態、〈素材〉の〈表面〉と〈固定方法〉と密接に関わっている。また、彼は設計の際、空間の大きさや比率、素材を〈静寂〉の中で組み立てていき、そこで響く音について想いを巡らせる。さらに、木材などを使用することで、建物が人にとって適切な〈温度〉となるようにする。空間構成作用は空間構成秩序と空間構成要素に影響を受けるものである。

## 6. 作品分析

### 6.1 作品分析方法

10 作品に対して作品シートによる分析, 思想分析で得られた概念より設定した項目別分析を行い, 思想と作品の相互関係と行われる操作を把握する。

### 6.2 作品分析シートによる分析

思想分析で得られた基礎概念, 空間構成秩序と空間構成要素に従い, 平面図, 断面図, 詳細断面図を挿入して作品の特徴を分析する。作品分析シートの一例を図2に示す。

### 6.3 項目別分析

作品分析シートによる分析, 作品別項目分析を行った上で, 項目別に 10 作品を総合して分析し, ズントーの建築作品における基礎概念と空間構成秩序, 空間構成要素について考察する。

## 7. 主要な操作

### 7.1 作品分析方法

項目別分析にて項目ごとの視点を得た上で, 空間構成秩序と空間構成要素を組み合わせ, さらに作品数を絞って分析を行う。10 作品からさらに 3 作品を選定, 作品分析シートによって分析を行う。



図2 作品分析シート例 [5] Therme Vals-1

### 7.2 作品分析シートによる分析

4 つの空間構成秩序に対して<光>, <素材>という空間構成要素を加え, <オブジェクトの自律性の強調>, <浮遊性動線の誘因の配置>, <閉じた立体と開かれた立体の交錯>, <身体的遠近による親密性の喚起>という4つの操作を見出し, アクソメ図, パース, 写真を挿入して作品の特徴を分析した。分析図の一例を図3に示す。

### 7.3 項目別分析

<オブジェクトの自律性の強調>は, <解剖学的構造>によって建築全体の理念に沿って建築要素が独立させられ, そこに<光>が意識的に当てられることによって, <素材>自体が持つ本質の豊かさが露わになる操作である。<浮遊性動線の誘因の配置>では, <浮遊性動線>を誘発する空間構成の中の人々に対して<光>や<素材>によって移動を誘いかける誘因が配置されていた。これによって興味や発見が生まれ, 人の心や感覚を揺り動かしている。<閉じた立体と開かれた立体の交錯>に関しては, 「内部の空間が外と絶縁している閉じた立体」と「無限の連続空間につながる部分を含んだ開かれた立体」という2つの空間構成によって設計が行われていた。また「閉じた立体と開かれ

た立体の境界」には<光>や<素材>の変化が見られ, 反対側の空間構成へ意識を向けさせていた。<身体的遠近による親密性の喚起>に関しては, 人間の空間への感覚をイメージして寸法が決められ, さらに<内部に隠れた量感>を持たせ, <光>の明暗の差や, 選び抜かれた<素材>を用いることによって, 人間の身体感覚の幅を広げ, 親密性を喚起する操作である。

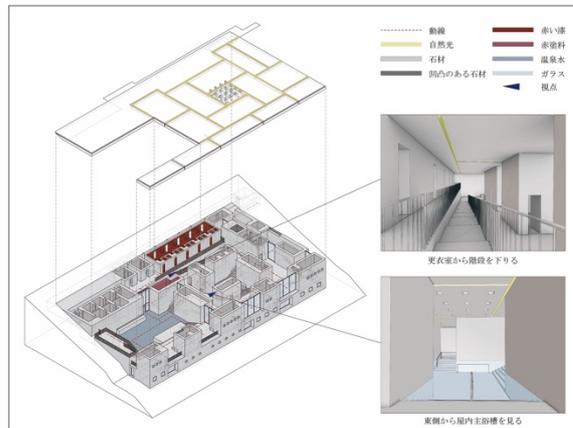


図3 分析図例 [5] Therme Vals-浮遊性動線の誘因の配置

## 8. まとめ

ズントーは<Sachverhalt>を最大限に知覚化する手法を重ねることによって, 人の心を動かす<Atmosphären>を創出する。これは, 現実の物質が人間の感覚へと変容する瞬間であるとも言える。彼の独自の空間構成に対して, 選び抜かれた<素材>や<光>といった要素を置くことによって, <オブジェクトの自律性の強調>, <浮遊性動線の誘因の配置>, <閉じた立体と開かれた立体の交錯>, <身体的遠近による親密性の喚起>といった操作が行われ, 人間の知覚に働きかける。さらに時の経過を経て, 人間の生や自然の痕跡をその身体に残す建築は, 独特の<Atmosphären>を醸し出すのである。ズントーは, 現代を生きる我々に, 人間の知覚を揺さぶる空間のあり方を提示した。

<Sachverhalt>, 事物の本質を導き出す空間構成と, それを照らす刻々と移り変わる太陽の光, 時の経過を表す痕跡が<Atmosphären>を創出し, 建築における<美しさ>の体験を生み出す“スパーク”が起こる。世界の事物に対する感覚に鈍感となっている我々に対して, ズントーは建築における繊細な知覚を授ける。

### 参考文献

- 1) 藤枝大樹: ピーター・ズントーの中低層集合住宅デザインに関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.133-134, 2016.8
- 2) 藤枝大樹: ピーター・ズントーの建築設計手法に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp.193-194, 2018.7
- 3) Peter Zumthor: Architektur Denken, Birkhäuser, 1998
- 4) Peter Zumthor: Atmosphären, Birkhäuser, 2006